新潟市教育委員会
学校支援課だより

Support

No. 10
平成22年1月15日
編集・発行
学校支援課　広報担当

学校訪問で多かった
質問にお答えします。

『言語活動』に関するQ&A

Ｑ１　言語活動の充実が，なぜ重要なのですか？

Ａ１　「言語活動の充実」は，「バランス」のとれた学力（総則編「まえがき」参照）をはぐくむために今次改訂で強調されました。すべての学習の基盤が言語にあることは，誰しも異論のないところでしょう。知識・技能の習得も，それらを活用して思考し，判断し，表現することもすべて言語によって行われています。言語活動の充実をはかることで，学習活動の深まりが一層増すことになるのです。

Ｑ２　言語活動はこれまでもやっていました。特別に新しいことなのですか？

Ａ２　たしかに，これまでも言語活動は，各教師の工夫のもとで行われてきました。けれども，はたしてそれが意図的・計画的，さらには組織的（全校的）に行われていたか，を問われるとどうでしょうか。各校の教育課程「すべて」において言語活動の充実が求められている点に，主張の新しさがあるといえます。

Ｑ３　言語活動は「国語」でやればよいのではないですか？

Ａ３　言語に関する能力を育成する中核的な教科は，もちろん国語科です。しかし，観察結果をレポートしたり論述したりすることや，自分の考えを説明したり伝えたりすることは，教科枠を越えて行われる活動です。言語活動の充実は，すべての教科等を貫く重要な改善の視点になっているのです。

ようこそ，中国南寧市「天桃実験学校」のみなさん！

12月7日(月),中国江西ﾁﾜﾝ族自治区南寧市にある天桃実験学校（てんとうじっけんがっこう）から８名の訪問団員が，新潟市教育委員会へ表敬訪問においでになりました。南中野山小学校との交流のために来日されたのです。

南中野山小学校と天桃実験学校は，17年間にわたり，姉妹校として相互に訪問し合う交流を続けてきています。これだけ長い国際交流を続けている学校は，なかなかありません。

鈴木教育長・南学校支援課長他が迎える懇談会場において，天桃実験学校の徐元生校長は「初めて来た新潟だが，すごくよい所だとすぐにわかった。これからも交流を続けたい」と語りました。

↑南中野山小での交流の様子←

特集

校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園

実践研究事業モデル校の紹介

＜南浜中学校区＞（南浜中・南浜小・太夫浜小）

3つのプロジェクトで不登校が減少

南浜中学校区では，昭和53年から続く「南教研」を通して伝統的に連携を深めてきました。昨年度，不登校が急増したことから，3つの「不登校対策プロジェクト」を実施しました。

・「学力プロジェクト」による，学習ルール，家庭学習の仕方，宿題の出し方の統一
・「人間関係プロジェクト」による，Q-Uを活用した学級経営の改善と早期発見早期解決を図るための情報交換の日常化
・「健康体力プロジェクト」による，生活アンケートと生活改善の啓発活動

これらのプロジェクトにより，不登校児童生徒数は，大幅に減少しました。年度末には，これらにかかわる9年間の指導計画を作成する予定です。

＜大江山中学校区＞（大江山中・丸山小・大淵小）

目指せ！不登校ゼロの中学校区

大江山中学校区では，「不登校ゼロ」を目標に，以下のように小中連携に熱心に取り組み，現在はゼロに近い状況です。

・不登校未然防止中学校区プロジェクト会議の年3回実施
・校区独自の中1ギャップ防止連絡会や生徒の手による学校説明会の実施
・学期始めの1週間を「あいさつ強調週間」とする，3校統一した取組

また，3校合同研修会を開催し，「児童生徒にかかわる力をつけるにはどうしたらよいか」をテーマにグループ討議を行いました。その後，「知・徳・体」の部会の中で小中の教員が意見交換を行いました。小中の教員が共通理解を深めることで，各校で具体的な取組につながり，成果が上がっています。

＜味方中学校区＞（味方中・味方小・あじほ保育園・にししろね保育園）

食育を中心とした生活改善プロジェクト

味方中学校区では，保育園・小学校・中学校のPTA役員や地域の関係機関，医療関係者からなる「学校保健委員会」を年2回開催しています。それを母体として保・小・中が連携し，食育を中心とした生活改善「『弁当の日」プロジェクト in 味方」を進めています。

・「食品添加物」や「弁当の日」をテーマにした中央講師による講演会
・地元産の野菜の栽培・収穫・調理・試食（保育園・小学校）
・「弁当の日」の実施（年間8回），地産地消献立調理実習，ハウス栽培農家訪問（中学校）

これらの取組は，生活改善に役立つだけでなく，家庭でのコミュニケーション不足の解消や幼児児童生徒の人間関係調整力の育成にもつながる活動になっています。

山の下中学校

長谷川指導主事の
学校訪問日記

かかわり合う力の育成　－あらゆる活動にかかわり合いを－

なぜ
かかわり合いを・・・

山の下中学校では，平成19年度から「指導力の向上」を研究主題に掲げ，教職員一人一人が互いに高め合ってきています。

年間30回の基礎学力テストや個別指導・補充指導などを充実させた結果「授業が分かる」と自己評価する生徒は，80%を越えました。

しかし，全国学力調査の伸びや不登校の減少などの課題が依然として残っていました。

そこで，今年度から，生徒同士の人間関係を豊かにすることで，基礎的な学力の向上と，いじめや不登校の未然防止を目指し，「かかわり合う力」に注目しました。

方法は・・・

①あらゆる場面で「かかわり合い」を意識する

・生徒と生徒，教師と生徒，地域と生徒
・学校行事，生徒会，学習指導，道徳，特別活動

②目指す生徒像を明確にする

・互いの意見や考えを交わすことで，他者の考えに気付き，自分の考えを深めることができる。
・生徒同士の教え合いができる。
・生徒が遠慮せずに質問ができる。
・生徒同士の話し合い活動ができる。

③的確な実態把握と確実なスキル指導をする

・Q-Uアンケート(年間2回)による客観的な実態把握
・実態に合わせたソーシャルスキルトレーニング(SST)
・ソーシャルスキルを活かした構成的グループエンカウンター

実際は・・・

＜2年4組　高橋敏明教諭の授業 「わたしの四面鏡」（学級活動）＞

①あらゆる場面で「かかわり合い」を意識する

高橋教諭は，本時だけでなく普段の授業から積極的にかかわり合う場面を設定しています。例えば，生徒同士の教え合いの場面を意図的に取り入れています。

②目指す生徒像を明確にする

「相手の良さを互いに認め合う生徒」という生徒像を目指し，体育祭で見せた学級の団結を一人一人の生徒の中に確実に活きて残るものにしたいと願って授業を構想しました。

③的確な実態把握と確実なスキル指導をする

６月のQ-Uの結果を受けたSSTを実施したあと，本時に入りました。「今日は友達の良いところを見つけ，それを伝え合い，自分のよさを見直して欲しいと思います」と語りかけた高橋教諭は，よさを出しやすいようにワークシートを使い，すべての生徒のよさを出せました。その後，「伝え方のスキル」にしたがって生徒は，少人数グループで伝え合いをしました。

穏やかな表情で，友達からの話をきく生徒を見ながら，このような活動の積み重ねが学校の課題を解決する糸口になると実感しました。

～夢に向かってたくましく～　新潟市立二葉中学校

二葉中学校では，「夢に向かってたくましくチャレンジする生徒の育成」を目指した学校づくりが着々と進められています。

○巨大絵画に夢を託して

体育館に入ると「朱鷺」と「絆」の文字が描かれた巨大絵画が目に入ります。生徒会行事として，全生徒がグループで制作した絵を繋げて一つの絵に仕上げたものであり，未来への夢や願いが込められています。写真は，巨大絵画の前で「いじめ根絶集会」のパネルディスカッションを行っている様子です。校内では，生徒の手によるいじめ根絶スローガンや輝翔祭などの生徒会活動をふんだんに掲示してあり，互いに支え合う人間関係を大切にした教育活動の充実を感じることできます。

○生きる力をはぐくむ教育課程の工夫，地域貢献・チャレンジ体験

・週1時間の授業時数増で深く学ぶ時間を確保し，学力向上を図っています。さらに大学生・大学院生・校区内の小学校の先生方による学習支援など，学習環境の整備に工夫がなされています。

・四領域総合学習（国際理解，伝統歴史，福祉，環境）では，学年を超えたグループで地域の施設や人材に学ぶ積極的な学習がなされ，学習発表会では成果が発表されました。

・訪問演奏（福祉施設，敬老会など），日和山浜清掃，職場体験，ファームステイ，部活動，新潟島ウォーク，駅伝二葉，全校合同トレーニング・・・体験を活かした道徳教育や体力向上の計画的な実践により，授業に臨む成長した生徒の明るい姿が心に残っています。

（文責　中央区担当指導主事　小田　八重子）

区担当のページ

～地域の宝「太田の森」を生かして～太田小学校

ビオトープ「太田の森」は，子どもたちにもっと身近に自然体験を味わわせたいという保護者・地域の願いから平成11年度より5か年をかけて作られたものです。周辺には，クヌギ，コナラをはじめ約170本が植樹され，かぶと虫，クワガタが生息しています。6月末には，ここで生まれた100匹近くのホタルが飛び回ります。また，隣接した池には福島潟から移植したオニバスも夏には見事な花を咲かせます。

ビオトープの整備作業は，児童，保護者，地域自治会，葛塚中学校生徒，職員など総出で行われます。ろ過機の清掃，泥取り，草刈り，石の敷き詰め，苔の移植等々です。そして，観察日記では，ビオトープへの想いを観察日記に，次のように綴っています。

「6月29日（月）　今，ビオトープは夏らしく緑でいっぱいでした。水の音と葉と葉がぶつかって『ざー』『さあー』という音が聞こえてきました。水も気持ちよさそうに流れていました。すきとおってきれいでした。葉の色が緑や黄緑でした。これからもいろんな発見をしたいです。」

学校では，「ビオトープ」を系統的に環境教育に位置付けています。低学年の生き物と触れ合うことから始まり，環境の維持・管理，さらには，福島潟を教材として取り上げています。

太田小学校の子どもたちが，このビオトープとの出会いをとおして，自然への関心を高め，自然環境の維持・管理，向上への実践力を培っていくことを願っています。

（文責　北区担当指導主事　梅津　威）